



# 「日本遺産」認定のまち 忍びの里伊賀・甲賀

【問い合わせ】

忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事務局  
伊賀市観光振興課 ☎0595-22-9670  
甲賀市観光企画推進課 ☎0748-69-2190



## 大鳥神社

甲賀市甲賀町鳥居野に鎮座する大鳥神社は、平安時代に伊賀国より勧請された古社で、大原谷の総社として崇敬されてきました。京都の八坂神社を模した朱塗りの楼門（国登録有形文化財）のほか、平安時代の木造神像（重要文化財）など多くの宝物を有しています。毎年夏には、疫病を鎮めるため花蓋の造花を奪い合う「花奪い（ハナパイ）」で知られる「大原祇園」が行われ、風流な灯籠や踊り子などの芸能を今に伝えています。

ここは甲賀忍者としても名高い地侍「大原氏」の拠点でした。戦国時代、一族は「大原同名中」という強固な自治組織を結成し、地域の支配や防御を担いました。彼らが定めた「大原同名中与掟」は、忍びの里の自治を伝える貴重な史料です。この結束は現代にも「大原同苗講」として受け継がれ、今もなお毎年8月には大鳥神社で末裔たちが寄合を行い、その歴史と誇りを守り続けています。



▲大鳥神社正面



日本遺産忍びの里 伊賀・甲賀ホームページ

## 情報交流ひろば となりまち

### 甲賀市 近江鉄道に乗って巡る 『御城印スタンプラリー』

3月1日から近江鉄道線全線で、ICOCAなどの交通系ICカードが使えるようになり、JR草津線からの乗り継ぎがより便利になりました。

安土城築城450年と「豊臣家」にゆかりのある近江八幡市・甲賀市の各施設を巡るスタンプラリーを開催しています。

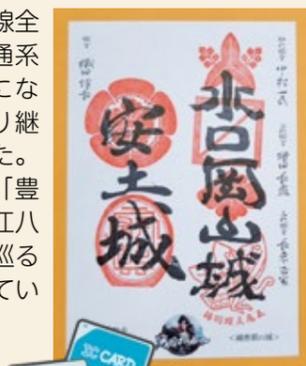
鉄道に乗ってオリジナルの御城印\*を作りに来ませんか。

【と き】 3月31日(火)まで

\*お城などを訪れた証として授与される印章

問 ○近江鉄道株式会社 鉄道部  
☎ 0749-22-3303

○(-社) 甲賀市観光まちづくり協会  
☎ 0748-60-2690



近江鉄道ホームページ



御城印スタンプラリー

## 伊賀 い・ 甲賀 こ・ 亀山 が

亀山市

### 第4弾「亀山ブランド」認定品

亀山市では、魅力ある特産品を全国に発信するため、令和3年度から「亀山ブランド認定事業」を実施しています。

今年度、新たに3品目を認定し、全21事業者41品目となりました。(一部重複事業者有)

○亀山抹茶フロランタンBOX  
希少な亀山市産抹茶100%使用の関宿の新名物



菓子工房さみの庭  
亀山市関町木崎 264-1  
☎ 080-5312-7560

○ほうじ茶  
ほうじ茶=安価という常識を覆す「高級なほうじ茶」



市川大楽園  
亀山市刃法寺町 1013-4  
☎ 0595-85-0321

○AU 違うクラフトシロップシリーズ  
「人や地域とご縁」をコンセプトにしたオリジナルクラフトシロップ



岡田屋本店  
亀山市西町 438  
☎ 0595-82-0252

詳しくは、市ホームページをご覧ください。



亀山ブランド 検索

問 亀山市商工観光課観光・地域ブランドグループ  
☎ 0595-84-5074

## 伊賀城和 定住自立圏 — IGAJOWA —

# 伊賀城和 (伊賀・山城南・東大和) 定住自立圏ニュース

問 市民活動支援センター ☎ 22-1511 FAX 22-0317

TOPICS

## エヌワン N-1 グランプリ in 伊賀城和 2025

### 表彰式・交流会



今年度のN-1 グランプリは22団体がエントリーしました。昨年10月に各市町村で行った活動紹介パネル展示には、1,180票の投票をいただきました。

1月26日(月)、ゆめぼりすセンターでグランプリの結果発表と表彰式・交流会を開催しました。

N-1 グランプリは、伊賀城和定住自立圏域で活動する住民団体が活動紹介パネルを作成・展示し、パネルを見た人が応援したい団体に投票する取り組みです。



交流会では、団体同士が日頃の取り組みやこれからの活動などについて意見交換しながら交流を図り、時間を忘れて語り合う様子から活動に対する熱い思いが伝わりました。



### グランプリ (154票)

事業名：観光ボランティアガイド活動  
団体名：カルチャーボランティアガイド  
いがうえの語り部の会(伊賀市)



### 準グランプリ(134票)

事業名：地域住民のための、地域住民参加型「第九演奏会」  
団体名：名張第九を歌う会(名張市)

### 第3位 (118票)

事業名：未来へつなぐ地域づくり活動  
団体名：川西梅が丘地域づくり協議会  
青年部(名張市)

会場では、各団体が持ち寄ったパンフレットやチラシの配布、PR動画の上映もありました。

N-1 グランプリをきっかけに団体同士が新たにつながり、住民活動がさらに盛り上がることを願っています。

